

第1章	総則 .....	1
第1節	過去に発生した風水害の特性.....	1
第2節	被害想定 .....	2

## 第1章 総則

### 第1節 過去に発生した風水害の特性

急峻な地形、急勾配の河川、「暴れ天竜」の異名をとる天竜川など、駒ヶ根市の自然条件は地震、風水害等の自然災害に対する危険性を常にはらんでおり、とりわけ豪雨災害は、多大な損害を地域住民に与えてきた。また、風の強い地域であるため、過去には幾多の大火災も発生している。

駒ヶ根市で発生した災害は、主として天竜川や太田切川の洪水による氾濫水害である。特に昭和36年の梅雨前線による集中豪雨では、死者5人、浸水家屋119戸、道路破損72ヶ所、橋梁被害33ヶ所、崩壊地多数、農地76.5ha、農作物167haに被害を与える明治以後最大の災害となった。

記録については、資料2「風水害の記録」のとおりである。

#### 第1 前線の影響による大雨

梅雨期や秋雨期には、前線上を東進する低気圧や台風の北上に伴い、南海上から流入する暖湿気流によって、前線活動が活発となり大雨を降らせることがあり、水害の直接要因となる。特に、近年、梅雨末期は集中豪雨となりやすく警戒を要する。

#### 第2 台風の進路による影響

長野県の位置と地形のもつ条件により、台風の接近、通過は各所に風水害をもたらす。影響を及ぼす台風を経路により大別すると、次の4つのコースに分けられる。

##### 1 県を縦断して北上する場合

県全域が暴風域に入り、全県的に風害や水害が発生する。東部及び北部一帯は風・雨ともに強く、台風通過後も吹き返しの風による災害をもたらす。

##### 2 県の西側に接近して北東進する場合

県全域が暴風域に入り、全県的に風害や水害が発生し、特に本市の位置する南部と西部の山沿いは局地的な大雨となる。

##### 3 県の東側に接近して北上する場合

県の東部山沿いで風・雨ともに強く、台風の吹き返しの風が被害を大きくする。

##### 4 県の南側に接近して東進する場合

南部や東部に大雨の降る典型的な雨台風で、本市の位置する南部や東部に水害をもたらす。

## 第2節 被害想定

水害（内水氾濫）の被害想定にあたっては、今後の防災アセスメントに依存するものとし、このときの降雨条件は、50年確率の日雨量（50年に1度の大雨のこと。）又は100年確率の日雨量（100年に1度の大雨のこと。）を用いて行う。

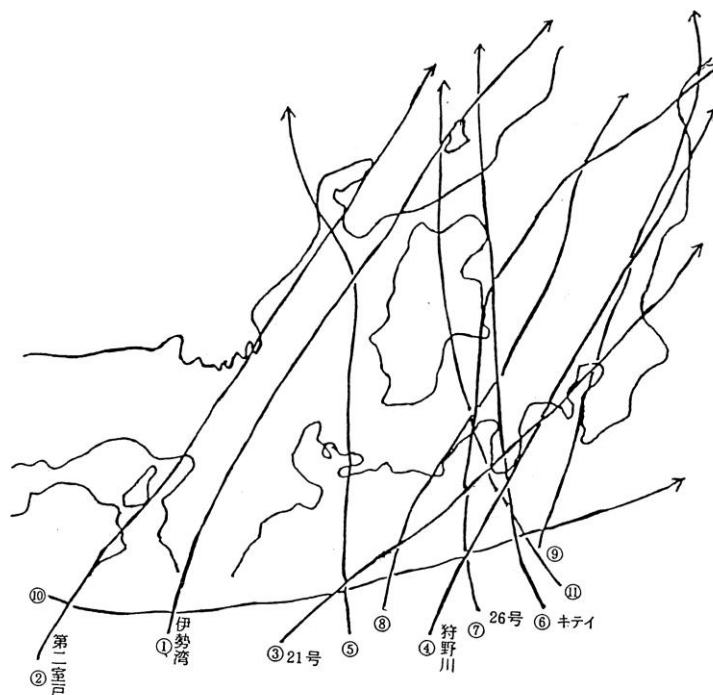
なお、当面は、昭和34年9月の伊勢湾台風、昭和58年9月の台風10号等の被害を想定する。

### 30年確率、50年確率及び100年確率の日雨量

観測所名	日雨量（mm）			備考
	30年確率	50年確率	100年確率	
飯田	190	209	237	

資料：気象庁 異常気象リスクマップ

長野県に接近し被害をおよぼした台風の進路



長野県に大きな被害をおよぼした主な台風のコース			
①	昭和 34 年伊勢湾台風	⑦	昭和 41 年台風第 26 号
②	昭和 36 年第 2 室戸台風	⑧	昭和 57 年台風第 18 号
③	昭和 33 年台風第 21 号	⑨	昭和 56 年台風第 15 号
④	昭和 33 年狩野川台風	⑩	昭和 58 年台風第 10 号
⑤	昭和 57 年台風第 10 号	⑪	昭和 34 年台風第 7 号
⑥	昭和 24 年キティ台風		